



医療最前線

「腰痛による社会的損失は計り知れない。適切な診断、治療をしたい」。人間の活動を支える屋台骨「腰」を専門とする整形外科医である。

「国民病」とも言われる腰痛だが、「原因がはっきりしない」「非特異的腰痛」も多く、痛みをもたらす仕組みや精神面の影響など、新しい研究が進んでいる」と説明する。

屋台骨「腰」が専門

人を悩ます腰痛の謎に迫ろうと、脊椎疾患では国内の臨床研究をリードする千葉大で7年間、研鑽を積み、昨年4月、父の竝さん(なみ)が心血を注いだ整形外科の専門医療機関である西能病院に移った。

「手術からリハビリまで責

医療法人財団五省会 西能病院(富山市)理事 西能 健さん (36)

整形外科の志を継ぐ

任を持ち、患者のQOL(生活の質)を向上させる。それが父の目指した医療でした」

運営する五省会理事長の兄・淳さん(42)やスタッフと一丸で患者と向き合う。

西能病院は竝さんの兄・正一郎さんが1962年、北陸初の整形外科診療所として開

「これまでの歴史に感謝しながらも、時代に合った医療と介護を提供したい」

き、2012年に富山市五福から同市高田に新築移転。その完成を見ることなく、竝さんは6歳で亡くなった。

常勤の整形外科医が9人、リハビリにあたる理学・作業療法士が27人。西能病院は最新の設備を備え、手術件数は年間約1500件に上る。同じ敷地に整備された西能クリ

と奉仕」の志を胸に、病院を

ニックは「地域の窓口」の役割を果たし、他の医療機関とも連携を図る。これが、半世紀を経た整形外科専門病院の「進形」である。



整形外科の仕事について語る西能さん
—富山市高田の西能病院

さいのう・たけし 富山市出身、東京医大卒。千葉大医学部附属病院などを経て、昨年4月から西能病院

・整形外科センター西能クリニックでリハビリテーション科部長兼地域連携室長。

「介護予防にもより力を入れます」。骨や関節、筋肉など運動器は元気の源。高齢化が進む中、加齢で筋肉が減る「サルコペニア」、運動器の衰えで介護のリスクが高まる「ロコモティブシンドローム」の対策に運動習慣や栄養、投薬など総合的な視点で取り組む。

地域貢献も力の入れどころで、ロコモ予防について分かりやすく伝えたり、けがなくスポーツを楽しむ知識を教えたりする交流セミナーを昨年25回開いた。「医療は日々進歩している。最先端の知見も取り入れ、痛みの原因究明や治療に全力を注ぐ。それを自分の使命とし、がむしゃらに挑戦です」と力を込める。